

鳥取大学・医学部学生さんが訪問してくれました！

(2023年3月7日)

今回は鳥取大学医学部の学生さんたちが、はるばる日本からベトナムへ研修旅行を企画し、その中で我々SATREPS プロジェクトを訪問してくれました。皆さんは「[国際保健友の会ハクナマタタ](#)」という鳥取大学医学部のサークルとして活動されているようで、その活動の一つとして今回はベトナムの保健医療事情を、現場を訪問しながら学んでいるそうです。

まず最初に国立熱帯病病院の Dr. Hoa より病院に関しての概況を説明してもらいました。感染症の国内最大病院としての役割を詳しく説明してくれると共に、内容に凝った「ベトナム医療事情クイズ」を用意してくれていました。学生さんたちもゲーム感覚でクイズを楽しみながら、ベトナムの医療事情、新型コロナの経験などを学びました。

その後プロジェクト側からは、今井・業務調整専門家が現在のベトナムにおける HIV/AIDS 事情やプロジェクトの活動に関して説明をしました。参加した学生さんは、このニュースレターもきちんと読んで事前にしっかり勉強してきてくれたようで（ありがとうございます！！）、多くの質問が出て質疑応答は予定の時間を超えて行われました。



国立熱帯病病院の Dr. Hoa と JICA プロジェクトの今井・業務調整専門家より病院や事業について説明



最後は皆で記念撮影。ハノイからホーチミンまで巡るベトナム研修、沢山学んで、沢山楽しんでください！

その後、学生さんたちは2グループに分かれて病院内を見学。HIV 外来では、HIV 感染者の方がそのステータスがわからないよう、ぱっと見ではそこが HIV 外来であることがわからないようにしているため、外観を眺めつつ詳しくは看護師さんが働く事務室に入って、医師から詳しい話を伺いました。また救命救急センターICU も見学し、ベトナムにおける救急医療の一端を紹介しました。



JICA-SATREPS プロジェクト
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to-bedside system”構築と
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



皆さん大変熱心に話を聞いていただいたり、メモを取っていただいたり、質問をしていただいたことで、プロジェクトとしても改めて自分たちがやっている活動を振り返るいい機会になりました。これからの日本を、世界を担う医療人財である日本の医学部の学生さんたち、今回新型コロナでもまざまざと見せつけられた通り、ウイルスは軽々と国境を越えてやってくる時代です。だからこそ、国際感覚を磨いて、世界の保健・医療事情を知っておくことは、世界にとっても日本にとっても、とても大事なことです。そんな未来の人財が若い時期にベトナムの医療事情に触れてくれたこと、そこで日本（JICA・AMED）がやっている SATREPS プロジェクトを勉強してくれたことを、とてもうれしく思っています。これからも頑張ってください！